



## 『鯨神』

宇能 鴻一郎

宇能鴻一郎は北海道に生まれ、昭和三十六年、『鯨神』で第四十六回芥川賞を受賞した。以後作家生活に入り、性風俗もので流行作家となったが、昭和四十七年以降は嵯峨島昭の筆名で推理小説を書いた。

『鯨神』は、鯨捕りで生計を立てていた「肥前平戸島和田浦」を舞台に、鯨神と恐れられた巨鯨と格闘した、海に生きる勇壮な男たちの生と死の物語である。

江戸時代の平戸、生月の捕鯨は日本捕鯨史上大きな位置を占めた。「勇魚捕り」は「絵詞」にも描かれており、出漁前に唄われた勇魚捕唄は、現在も無形文化財として継承されている。

平成七年、生月大橋近くに開館した生月町博物館「島の館」には、当時の漁具等も展示されている。館の前には、昭和初期まで鯨が泳いでいたという平戸瀬戸を背景にして鯨のモニュメントが建っている。

『鯨神』は勝新太郎主演で映画化された。